

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム生きがい2 Aユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6-12		
自己評価作成日	令和3年12月30日	評価結果市町村受理日	令和4年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170503312-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがい2は、法人母体である整形外科内科沢口医院の3階にある。外来リハビリに定期的に通うことができるためリハビリの継続が可能であったり、体調不良の時など病院へすぐ相談できるため利用者さんも安心して生活することができる環境である。コロナ渦のため今年度は実施できなかったが、町内会の花植えや白石区の就労体験「でっち奉公」の学生さんの受け入れを長年継続、近所のケーキ屋さんや生協への買い物など地域とのつながりを意識している。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年1月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム生きがい2」は、JR白石駅から徒歩5分ほどの大通りに面した法人母体医院の3階に位置し、近隣には商業施設や銀行もあり生活の利便性が高い事業所である。居間や食堂は大きな窓に面した明るく開放感のある造りで、新年を感じる干支や風の装飾がさり気なく施されており落ち着いた雰囲気になっている。感染症の流行により地域交流は難しくなっているが、例年は管理者が地域の高齢者を対象にした健康体操やレクリエーションの講師を務めたり、中学校の「でっち奉公」を受け入れて子供たちと交流を行っていた。感染症の流行で「でっち奉公」は中止になったが、生徒会から職員と利用者宛に寄せ書きが届けられるなど長年の交流が活かされている。運営推進会議は、事前に会議メンバーから意見をもらうことで、参加できなかった家族の意見も寄せられるようになっている。馴染みの関係継続の面では、毎年年賀状を出すことで、利用開始時より友人や知人との関係が深まる利用者が増えており職員の取り組み成果が出てきている。ケアマネジメントの面では、介護記録を基に担当職員が支援経過記録に変化を転記して評価につなげるなど、日々の記録を活かしながら全職員で介護計画を作成している。管理者は計画的に内部研修を行いながら職員の育成や資質向上に取り組み、熱心に運営に携わっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内の見えるところに掲示、各スタッフが理念を念頭に入れて統一したケアを行えるようにしている	6項目からなる理念の中に、「地域住民との関わりを大切にし行事などで交流を深めます」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。入社時研修で説明し、常に職員が意識できるように事業所内の要所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや白石でっち奉公の学生さんの受入れ、町内会の花植えの参加、買い物など例年行っているが、コロナ渦のため中止で実施なし	感染症流行前はフラダンスのボランティアが来訪したり、法人母体の音楽療法士が訪れていた。感染症の流行で「でっち奉公」が中止になったが、中学校の生徒会から職員と利用者宛に寄せ書きが届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	急な見学対応などできる限り対応しており、その際支援の方法や介護保険施設の説明など行う地域の高齢者サロンなどにレク支援で参加を継続していたが、コロナ渦のため中止で実施なし		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は紙面上で実施、実施前にはアンケートを送付して意見をもらっている	感染症流行のため書面会議を開催し、行事や利用者状況、職員の採用や退職などを報告している。毎回、地域包括支援センターや地域役員、家族から意見を収集して議事録に記載している。主に、新型コロナウイルス感染症に関する意見が多く寄せられている。	会議にテーマを設定し、参加できない家族のテーマに沿った意見や質問なども聞き取り会議に活かすよう期待したい。議事録と一緒に、家族や地域住民に役立つ情報資料なども送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所でおむつサービスの代行申請、生活保護課担当者とは必要に応じて連絡、相談をしている	役所からメールで食中毒や感染症に関する情報提供を受けたり、介護保険の更新手続きなどで連絡を取っている。感染症流行により保護課担当者の来訪が難しいため、定期的に電話で情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為について、研修を実施してスタッフが理解して身体拘束のないケアができるようにしている 身体拘束等の適正化委員会を年4回開催し記録している	マニュアルと身体拘束ゼロへの手引きを整備し、禁止の対象となる具体的な行為について定期的に勉強会を実施している。身体拘束適正化委員会も3ヶ月ごとに開催している。勉強会資料を更に整備し、委員会議事録の職員確認欄も見やすくしたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各スタッフが具体的に高齢者虐待がどのようなものなのか理解して防止に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活支援事業や成年後見制度を利用されている方はいないが、制度がどのようなものかスタッフが理解できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族、利用者に十分な説明を行ったうえで契約締結を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行の「ひだまり通信」で行事内容や、担当スタッフ、管理者より直筆で記入、お願いや困りごとなども記入することにより家族に伝わりやすくなった電話などで聞き取りした内容は、介護記録に記載して申し送りしてスタッフで共有している	毎月「ひだまり通信」を発行し、個別の様子や行事などを伝えている。4か月ごとに利用者の写真も送付している。家族からの意見や要望は、内容に応じて引き継ぎノートや個別の支援経過記録に記入している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や日常的な聞き取りを行っている申し送りノートには何を書いてもいいことになっていて、こうしていこうとスタッフから提案する機会になっている	職員は意見や要望、気付いたことを引き継ぎノートに記入し、ユニット会議で話し合っている。職員の提案で備品などの設置場所を変更したこともある。職員は利用者担当や通信、発注や行事などの係を分担して運営やケアに携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフの力量の把握や研修を受ける機会の確保などに努めている 研修費の補助あり		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白石区内のグループホームで連絡を取り合っており、空室状況を集計して一覧にしたものを毎月発行 管理者会議が定期的に行われてきたが、コロナ渦で中止となっている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会の機会を持ち、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や疑問など傾聴、誠意を持って対応を行いはっきりとわかりやすい返答を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケアやサービスについて整理し関係者との連絡や相談をすることにより優先するべき支援を見極めることができている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの支援をお願いして協力してもらうなど、暮らしを共にする者同士という関係を築けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から利用者の様子などの報告や相談を行うように努めており、利用者本人を支えていく関係づくりを築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者自身に家族や友人に年賀状を作成して投函を続けており、その結果利用者へ届く年賀状が増えてきた 携帯電話を日常的に使用している方、友人からホームへ電話が来て交流を楽しんでいる 信仰する宗教の雑誌の差し入れが定期的にある	知人や友人と年賀状のやり取りをしたり、同僚や近所に住んでいた方と電話で話をしている利用者もいる。感染症流行前は知人が数人で訪ねて来たり、地元のお菓子を持って来訪する友人もあり、馴染みの人と交流を継続している利用者が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な時には仲介に入るなど利用者同士が関わりを持って生活していくことができるように努めている 部屋の行き来や自主歩行に誘いあう様子がある		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	誠意を持って支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	具体的に自分の口から希望が聞き取れない場合こちらの方ならこういう思いを持つてゐるのではないかと、その方の立場に立って検討する姿勢をスタッフ一同大切にしている 本人の言った言葉を介護記録に記載している	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。基本情報シートに得意なことや好きなことを記入しているが、情報が不足している利用者もいるので、関わりの中で把握しながら記録を充実させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取り、居宅介護支援事業者や病院相談員などにより情報提供をお願いして把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、連絡ノート、会議などによりスタッフ間で情報交換と把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じT再アセスメントを実施、現状に即した介護計画の作成に努めている 介護記録、介護支援経過記録、ケアプラン評価表を活用し実施している ひだまり通信に記載お知らせすることでと面会時に家族からスムーズに話を聞くことができています	日々の介護記録を基に利用者担当職員が記入した支援経過記録に沿って、計画作成担当者を中心に利用者の変化に応じて3～6か月ごとに介護計画を作成している。家族や本人の意向は普段から聞き取り、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の実際に言っていた言葉を残すように努めている また気づきや工夫などは申し送り、会議などで確認し情報共有しており、アセスメント追加や介護計画見直しにいかすことができています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対応できるよう誠意を持って行うよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容、病院外来でリハビリ利用がある 利用者の豊かな生活づくりに役立つ地域資源がないか把握に努める		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診察の他、不調時などは同建物1階の沢口医院に受診すべきかどうかも含めて相談することができる 他科は家族やスタッフが付き添い受診することがある 受診記録を作成している	定期的な往診の他、状況に応じて職員対応で協力医療機関を受診している。専門医を家族と受診する時は書面で本人の様子を伝えている。受診状況は個別に記録している。	

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から沢口医院の看護師に相談することができ適切な受診を受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診の付き添い時などに、利用者の様子や症状などの報告を行っており、病院関係者との関係づくりに役立っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針の文書に基づいた説明を行っている。口から食べられない状態や常時医療が必要時は、医療機関や他施設を紹介、仲介している	重度化した場合の対応に係る指針に沿って、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している。体調変化に応じて医師、家族、事業所で方針を話し合い、入院先や他の施設を紹介することも伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法のファイルが各ユニットに用意してある。コロナ感染や嘔吐時の対応方法の勉強会や訓練を実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定火災、地震避難訓練を実施 車椅子の利用者の階段からの避難や通報訓練をスタッフが体験している 実施結果は消防署へ書類を提出している	今年度は、年2回夜間の火災と地震を想定した自主訓練を実施している。感染症収束後は消防署と地域住民の協力を得た避難訓練を実施し、職員の救命講習も計画的に進める予定である。	地震時のケア別対応について話し合い、議事録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや大きさ、表情などもきをつけて対応 申し送りは事務所内で行い、プライバシーを確保している	接遇に関する内部研修を行い、利用者は「さん」付けで呼んでいる。個人情報記載の書類は事務所内に保管し、申し送りもプライバシーに配慮して事務所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけをしている	利用者へわかりやすい問いかけや促しに気をつけながら自己決定できるよう働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースや希望を尊重できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、シャンプー、洋服など好みのものを用意してもらうなど支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価（Aユニット）	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は一緒に食事をしながらメニューや食材の季節感を感じられるような会話を心がけている	食材業者作成の献立を利用している。利用者の意向で食材の調理方法を変更することもある。パンケーキやサンドイッチを利用者と一緒に調理したり、近隣のお店のソフトクリームなどを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態はその方にあわせて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態にあわせて口腔ケアを実施		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄記録を記載し適切なケアを行っている	日々の介護記録に排泄状況を記録している。自立している利用者もいる。時間を見ながら利用者に合った声かけ誘導を行うことで失敗を減らしている。利用者の意思を尊重し、残存能力を活かして支援することで自立へと改善したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量の確認を行い、便秘が続くとき主治医に相談することがある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が可能で各利用者が週2回の入浴をしている 一人で入浴できる方はゆっくり入れるよう配慮、時間は早めがいいかなど本人に確認して実施している	毎日入浴が可能で、午後の時間帯を中心に一人当たり週2回の入浴を支援している。利用者の状態に合わせてシャワー浴の場合もある。一人での入浴、職員と会話を楽しむなど、利用者一人ひとりに寄り添った支援をしている。湯上りのジュースも楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子観察、都度の対応を実施		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に必ずスタッフ全員が目し、医師からの注意事項などもあわせて確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできることややりたいこと、欲しいものなどの聞き取りを実施 利用者の携帯電話の使用支援などを行っている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦で外出支援は無かった 外来リハビリのあとに外気浴をしたり、庭の桜を見に行ったり、花火遊びを実施した	敷地内の桜見学や駐車場での花火など、可能な範囲で外気に触れる機会を設けている。感染症の収束状況を考慮しながら、近隣のスーパーマーケットや100円ショップなどへの日常的な買い物支援、ドライブなど以前行っていた外出支援を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に財布を持っていたり、事務所で財布や通帳を預かり希望時に本人に渡すことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状、電話などのやりとりの支援を実施		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう環境づくりに努めている	事務所を中心に回廊式の造りになっている。対面式キッチンから見えるリビングは広々としており、窓が多く明るい空間になっている。エアコンも設置されており、快適に過ごすことができる。書初めなどの季節の装飾が施されていたり、入口には利用者の写真が多く飾られている。畳の小上がりスペースもあり利用者が思い思いの場所で過ごすことができる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の小上がりや窓辺のソファで足を延ばしたり、日なたぼっこをする様子がある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、小さい冷蔵庫など自宅で使用していたものを持参し心地よく過ごせるようにしている	テレビや冷蔵庫などの電化製品やタンス、椅子、仏壇など馴染みの物や使い慣れた物を持ち込んで利用している利用者もいる。本人が制作した作品やお祝いのお色紙が飾られている温かみのある室内で、居心地よく過ごすことができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分が希望する生活が行えるよう見守りを重視している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム生きがい2 Bユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6-12		
自己評価作成日	令和3年12月30日	評価結果市町村受理日	令和4年2月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503312-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがい2は、法人母体である整形外科内科沢口医院の3階にある。外来リハビリに定期的に通うことができるためリハビリの継続が可能であったり、体調不良の時など病院へすぐ相談できるため利用者さんも安心して生活することができる環境である。コロナ渦のため今年度は実施できなかったが、町内会の花植えや白石区の就労体験「でっち奉公」の学生さんの受け入れを長年継続、近所のケーキ屋さんや生協への買い物など地域とのつながりを意識している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホーム内の見えるところに掲示、各スタッフが理念を念頭に入れて統一したケアを行えるようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや白石でっち奉公の学生さんの受入れ、町内会の花植えの参加、買い物など例年行ってきたが、コロナ渦のため中止で実施なし		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	急な見学対応などできる限り対応しており、その際支援の方法や介護保険施設の説明など行う地域の高齢者サロンなどにレク支援で参加を継続していたが、コロナ渦のため中止で実施なし		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は紙面上で実施、実施前にはアンケートを送付して意見をもらっている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所でおむつサービスの代行申請、生活保護課担当者とは必要に応じて連絡、相談をしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為について、研修を実施してスタッフが理解して身体拘束のないケアができるようにしている 身体拘束等の適正化委員会を年4回開催し記録している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	各スタッフが具体的に高齢者虐待がどのようなものなのか理解して防止に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活支援事業や成年後見制度を利用されている方はいないが、制度がどのようなものかスタッフが理解できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族、利用者に十分な説明を行ったうえで契約締結を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行の「ひだまり通信」で行事内容や、担当スタッフ、管理者より直筆で記入、お願いや困りごとなども記入することにより家族に伝わりやすくなった電話などで聞き取りした内容は、介護記録に記載して申し送りしてスタッフで共有している		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や日常的な聞き取りを行っている申し送りノートには何を書いてもいいことになっていて、こうしていこうとスタッフから提案する機会になっている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者はスタッフの力量の把握や研修を受ける機会の確保などに努めている 研修費の補助あり		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	白石区内のグループホームで連絡を取り合っており、空室状況を集計して一覧にしたものを毎月発行 管理者会議が定期的に行われてきたが、コロナ渦で中止となっている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会の機会を持ち、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や疑問など傾聴、誠意を持って対応を行いはっきりとわかりやすい返答を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケアやサービスについて整理し関係者との連絡や相談をすることにより優先すべき支援を見極めることができている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの支援をお願いして協力してもらうなど、暮らしを共にする者同士という関係を築けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段から利用者の様子などの報告や相談を行うように努めており、利用者本人を支えていく関係づくりを築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者自身に家族や友人に年賀状を作成して投函を続けており、その結果利用者へ届く年賀状が増えてきた 携帯電話を日常的に使用している方、友人からホームへ電話が来て交流を楽しんでいる 信仰する宗教の雑誌の差し入れが定期的にある		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な時には仲介に入るなど利用者同士が関わりを持って生活していくことができるように努めている 部屋の行き来や自主歩行に誘いあう様子がある		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	誠意を持って支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	具体的に自分の口から希望が聞き取れない場合この方ならこういう思いを持ってるのではないかと、その方の立場に立って検討する姿勢をスタッフ一同大切にしている 本人の言った言葉を介護記録に記載している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から聞き取り、居宅介護支援事業者や病院相談員などにより情報提供をお願いして把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、連絡ノート、会議などによりスタッフ間で情報交換と把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて再アセスメントを実施、現状に即した介護計画の作成に努めている 介護記録、介護支援経過記録、ケアプラン評価表を活用し実施している ひだまり通信に記載お知らせすることで面会時に家族からスムーズに話を聞くことができる		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の実際に言っていた言葉を残すように努めている また気づきや工夫などは申し送り、会議などで確認し情報共有しており、アセスメント追加や介護計画見直しにいかすことができる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズに対応できるよう誠意を持って行うよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーや訪問歯科、訪問理美容、病院外来でリハビリ利用がある 利用者の豊かな生活づくりに役立つ地域資源がないか把握に努める		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診察の他、不調時などは同建物1階の沢口医院に受診すべきかどうかも含めて相談することができる 他科は家族やスタッフが付き添い受診することがある 受診記録を作成している		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から沢口医院の看護師に相談することができ適切な受診を受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診の付き添い時などに、利用者の様子や症状などの報告を行っており、病院関係者との関係づくりに役立っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針の文書に基づいた説明を行っている 口から食べられない状態や常時医療が必要時は、医療機関や他施設を紹介、仲介している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法のファイルが各ユニットに用意してある コロナ感染や嘔吐時の対応方法の勉強会や訓練を実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定火災、地震避難訓練を実施 車椅子の利用者の階段からの避難や通報訓練をスタッフが体験している 実施結果は消防署へ書類を提出している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや大きさ、表情などもきをつけて対応 申し送りや事務所内で行い、プライバシーを確保している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者へわかりやすい問いかけや促しに気をつけながら自己決定できるように働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースや希望を尊重できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、シャンプー、洋服など好みのものを用意してもらうなど支援に努めている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は一緒に食事をしながらメニューや食材の季節感を感じられるような会話を心がけている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態はその方にあわせて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態にあわせて口腔ケアを実施		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄記録を記載し適切なケアを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量の確認を行い、便秘が続くとき主治医に相談することがある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴が可能で各利用者が週2回の入浴をしている 一人で入浴できる方はゆっくり入れるよう配慮、時間は早めがいいかなど本人に確認して実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の様子観察、都度の対応を実施		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に必ずスタッフ全員が目をし、医師からの注意事項などもあわせて確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のできることをやりたいこと、欲しいものなどの聞き取りを実施 利用者の携帯電話の使用支援などを行っている		

グループホーム生きがい2

自己評価	外部評価	項 目	自己評価 (Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は無かった 外来リハビリのあとに外気浴をしたり、庭の桜を見に行ったり、花火遊びを実施した		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に財布を持っていたり、事務所で財布や通帳を預かり希望時に本人に渡すことがある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状、電話などのやりとりの支援を実施		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるよう環境づくりに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の小上がりや窓辺のソファで足を延ばしたり、日なたぼっこをする様子がある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、小さい冷蔵庫など自宅で使用していたものを持参し心地よく過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分が希望する生活が行えるよう見守りを重視している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム生きがい2

作成日：令和 4年 2月 4日

市町村受理日：令和 4年 2月 9日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時の利用者個別の具体的な対応方法について、話し合いがされていない	災害時の利用者個別の対応方法を確認把握し、スタッフ同士共有できる	・利用者それぞれの身体状況やADLにあった対応方法を話し合う ・利用者個別の対応方法を、災害時マニュアルにつづって生かす ・定期的な見直しを行い、スタッフ同士共有する	1年間
2	4	運営推進会議の時、意見の聞き取りが不十分である	運営推進会議の時、意見が出やすい状況を工夫して会議を活性化させる	・議事録と一緒に、情報や資料などを一緒に送付する ・会議にテーマを設定する ・不参加の時でも、アンケートで返答してもらう ・普段からご本人の様子などこまめにお知らせをするなど話しやすい雰囲気づくりに努める	1年間
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。